

## 駅ホームの安全性向上に向けた取組みについて

JR東日本では、お客さまの列車との接触事故や線路への転落事故を防止する対策として、山手線等へのホームドア導入や内方線付き点状ブロックの整備を進めてきました。

今後、駅ホームにおける更なる安全性向上に向けて、京浜東北・根岸線の大宮・桜木町間全37駅等について、ホームドアの整備を促進するとともに、乗降1万人以上の駅について、内方線付き点状ブロックの整備を早期に進めていくことにしましたので、お知らせいたします。

### 1. ホームドアの整備を優先に進める在来線の駅

山手線については、2010年より全駅へのホームドア導入を進めてきており、これまで24駅に整備が完了しました。今後、新たに京浜東北・根岸線の大宮・桜木町間37駅についても、全駅へのホームドア導入に向けて整備を加速して進めてまいります。その他、新国立競技場周辺の駅等についても、ホームドアを整備してまいります。結果として、2020年度末時点で、58駅にホームドアが設置されます。なお、整備にあたっては、乗降10万人以上の駅等を優先し、国および自治体のご協力のもと進めてまいります。

#### (1) 山手線

- ・2020年度末までの整備予定駅…4駅(東京、新橋、浜松町、品川新駅(仮称))
- ・2021年度以降の整備予定駅…2駅(新宿、渋谷) 駅改良工事の工事工程に合わせて整備

#### (2) 京浜東北・根岸線(大宮・桜木町間37駅)

- ・2020年度末までの整備予定駅…27駅

既にお知らせをしている、さいたま新都心、浦和、赤羽、上野、有楽町、大井町、鶴見、品川新駅(仮称)に加え、新たに19駅を整備

- ・2021年度以降の整備予定駅…10駅

※ その他、既にお知らせをしている2020年度末までの整備予定駅

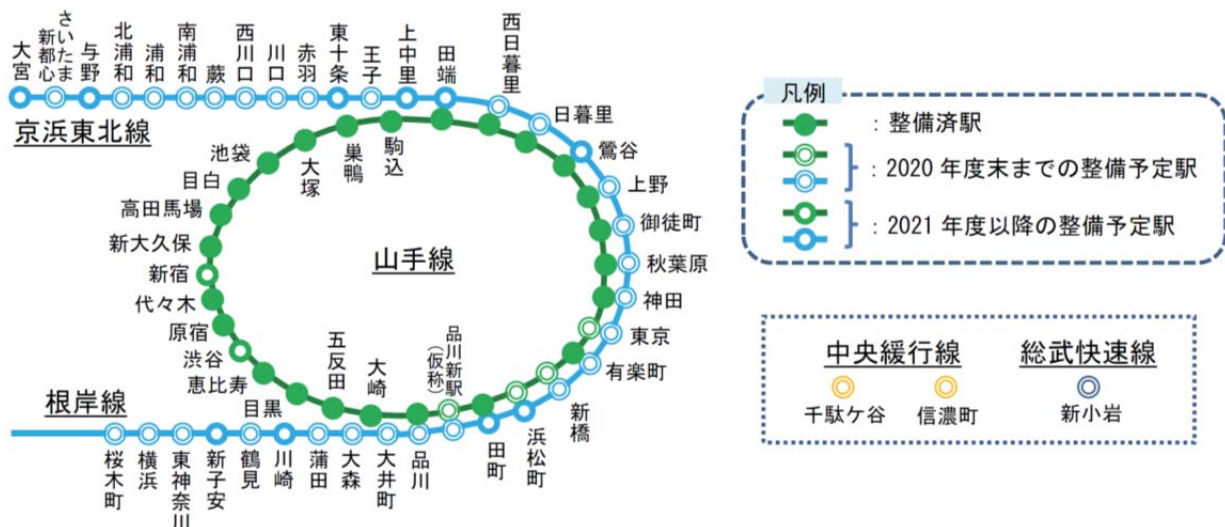
3駅…総武快速線:新小岩、中央緩行線:千駄ヶ谷、信濃町

※ 各駅の具体的な使用開始時期については、別途お知らせいたします。

※ 2016年12月17日より町田駅にて試行導入する新たな形式のホームドア「スマートホームドア®」(JR東日本メカトロニクス(株)が開発)については、今後の試行結果を踏まえて整備駅等を検討してまいります。



【ホームドア設置イメージ】



## 2. 内方線付き点状ブロックの整備をさらに進める駅

ホーム内側部分に線状突起を設けてホームの内外が分かるようにした「内方線付き点状ブロック」について、1日あたりの乗降人員が10万人以上の94駅は、2015年度末に整備を完了しております。

また、お客さまのご利用が比較的多い乗降人員が1万人以上10万人未満の265駅については、これまで宇都宮、郡山駅等、76駅で整備が完了しておりますが、今後、残りの板橋、東中野駅等の189駅について整備を加速して進め、2018年度末までに完了することを目指します。



【内方線付き点状ブロック】

【別紙】

ホームドア整備計画一覧表

2016年12月13日現在

線区	既設駅数	2020年度末までに整備する駅数	2021年度以降に整備する駅数	合計
山手線	24(19)	4(3)	2(2※)	30(24)
京浜東北 ・根岸線	0	27(24)	10(4※)	37(28)
その他	0	3(1)	今後計画を策定する	3(1)
合計	58(47)		12(6)	70(53)

( )内は乗降10万人以上駅の駅数

※山手線2駅(新宿、渋谷)、京浜東北線4駅(大宮、浜松町、田町、川崎)については、駅改良工事等に合わせ整備する。

内方線付き点状ブロック整備計画一覧表

2016年12月13日現在

	総駅数	既設駅数	2018年度末までに整備する駅数	合計
乗降10万人以上駅	94	94	—	94
乗降1万人以上 10万人未満駅	265	76	189	265
合計	359	170	189	359